

中村俊定文庫
文庫 18
782



玉雨庵

以左美



華鳥文庫序



夫慕古歌今導今歌古者所以移風易俗也
觀今而歌今者感物而發言者也然而所發其
言若有清濁鄙雅之不相同焉其情志正則
所其言必清而雅其情志不正則所發其言必
濁而鄙也詩哥連誹皆動心而發言者其義
一也予友五春莊主人貫通于此道而其所言者句
咏無不溫雅者遊行於遠道遙於近而玉章為
山佳句為堆依屏以分四時文錄諸君所吟之

秀吟附以圖畫石謂華鳥文庫志此道者以此
書為文庫而吟花鳥風月則猶登堂而入室入龍
屈以撰玉乎聊述鄙懷以書卷端見者以為改
之則偉也乎哉

文政二年歲在己卯春三月題于竹阴書屋

坂田逸民

龜友圖



花鳥文庫

浪華五春莊井眉選



春之乾坤

春

三月
元日

其心とたふも花よ鳥
おろし鳥や都より紅灯のゆり
見れ春を伝ふう琴はうとく
三月やういさかれも糸う唇
えりの春や繪好しつ糸糸
えりや人の生れく山は好
わくくさをえりうとつ鶴鳴わ

自樂
金流
芳齋
山流
井た
冬色
樂出

初空
初鷄
初鳥
初日
所降
餅縄
初氷
福寿草

久々を度けて出るや神は也 肥後熊甲 三考
 穴りといふ一日とてや 自樂
 初空に成りて年々 全
 之門跡や 伊丹 千鶴
 初鳥初青い 江右 千鶴
 餅より風風揚初日乃出 ナニホ 亀友
 初口は古め ナニホ 五仙
 餅より二様なき ナニホ 五仙
 餅より縄 岸和田 狐鳴
 わら氷を汲 イタ 井石
 新代の 五仙

様曳 さまひき

國光大師信傳の古俗之
 今の様曳の金次と記す
 初春の夜に様をひき
 又殿の様とす



雑煮
子日
人日
書文入

まね者乃 河波 五峰
 子日卯の古 口テ 菊鳴
 人の日 出立 牛丸
 人日乃 ナニホ 一學
 菰の糰 月巢
 やぬ入年 午鶴

余冬

霞

春雲

長不

水おとをきくも余冬は朝朝 後後 東耕

眼よ見くくくくくくくくくく 口口 鶴頂

物と板所日わくくくくくくく 口口 芳南

為うきくくくくくくくくくく 口口 鹿友

鳴根くくくくくくくくくくく 口口 此石

夕霞小物くくくくくくくく 口口 萱山

八重かきくくくくくくくく 口口 大人

春の雪まの楓くくくくくく 口口 宗質

くはくくくくくくくくくく 口口 花栖

其乃ゆきくくくくくくくく 口口 自樂

長田くくくくくくくくくく 口口 全

永日

陽炎

春

水くくくくくくくくくく ツクシ 梅調

長田くくくくくくくくくく 口口 五峰

かきくくくくくくくくくく 口口 自樂

其きりやくくくくくくくく 口口 全

くはくくくくくくくくくく 口口 左人

物きやくくくくくくくくく 口口 久松

鶴の踏む電ゆきくくくく 口口 其梅

かきくくくくくくくくくく 口口 等敵

物きくくくくくくくくくく 口口 石泉

輝くくくくくくくくくくく 口口 古井

かく鳥と水くくくくくく 口口 光春

春山 春海 春風

此ころや晴るまはしく春れ山
三傳人
浪もさるる中より其の海
其磐
系しけれを鑑みよる乃風
仙タイ
柏子乃きる家く春れを
玉叟
〜 灯もや吹くまの風
花月

春水

人なり〜 春れ水
池田
夕月紅かのにうきぬるもの
梅後
新〜 春乃水
柯亭
〜 春のふじ〜 春人の〜
其前
春の〜 春の春乃水
武後
春の〜 春の春乃水
樂只

春夜

春月

春の〜 春の春乃水
江尾鏡山
春の〜 春の春乃水
高杉
春の〜 春の春乃水
由儀
春の〜 春の春乃水
梅水
春の〜 春の春乃水
自楽
春の〜 春の春乃水
兼雄
春の〜 春の春乃水
東寺

凡中

様 庚 廿八日

今様色〜 の家なり
浪もさるる様色内なる
ものあり〜 町家のなほ
〜 様物〜



二日安
雛

如月
三月

行春

春のまや巨魁新とて二日安 和泉王子 八亀
 春のまや雛のまよ夕雀 玉叟
 春のまや雛のまよ夕雀 雛 井丸
 春のまや雛のまよ夕雀 雛 芦々
 春のまや雛のまよ夕雀 雛 枕棠
 春のまや雛のまよ夕雀 雛 自楽
 春のまや雛のまよ夕雀 雛 全
 春のまや雛のまよ夕雀 雛 雪香 周防室
 春のまや雛のまよ夕雀 雛 自示
 春のまや雛のまよ夕雀 雛 全
 春のまや雛のまよ夕雀 雛 董山

鶯

春鳥

春生類之部

春減しや柳紫ぬくまを懸る 日 里夕
 神やほ人に行きやまを減る 日 春
 以春のまよ夕雀 イキ 三千雄
 春のまよ夕雀 イキ 井眉
 鶯はおまよ夕雀 洛 雪雄
 春のまよ夕雀 林田花鼓 章丈
 春のまよ夕雀 洛 自楽
 春のまよ夕雀 洛 花月
 春のまよ夕雀 洛 全

叫子鳥

雲雀

燕

鷹

引雀

雲入鳥

雀

蝶

よ子鳥危角呼多斗あり

口良名井

やいしとや雀をのせる羽の風

仙タイ

ほろろと日和わろく世帯土

イッミ

氷鳴り風をこほまや其は鷹

出羽殿

あきの霜田ふきく神の序

尾良小次

任之儘りの雀引和歌の浦

其あ

くまにみる鳥や酒よめく探

ツシマ

糸車きくや雀のおもはろく

千羽

山深くふれあはれを蝶おろそ

ツシマ

蝶といさ雀るんよ不二山

日

あき風を人通き鳥よ子の蝶

出羽

里童

百非

大牛

毛彦

毛彦

神後

多井

千羽

蝶除

東指

南桂

田原

蛭

若良小次

費厄

蝶くや雀い日くしを雀きり

出羽同門

梅友

ゆきさけの雀にふも来る胡蝶

其勢

蝶も眼をさす世日和の雀よあり

子雀

小原女の泣きあつてふかき雀一つ

南井

尾野の足あく喚くれ子は蝶

タニハ

吃丸

蝶くにつきて雀もや田の雀も

自赤

きくわらうあはれをよもろ竹は蝶

ナギ仁尾

宗徳

足ふらふをたのめりや田の雀

陸奥

五陵

あしはらの濁りけりきまきり

日向

明之

新元を鳴るのこせり

戸

國村

了カ
蛙

馬刀室多湖の中まおぬ
おのねさほよおし出ほや幼蛙
かゝ蛙靴を不足おなうり
右取ささしはさし蛙うふ
あゝ川まわささし蛙
庫裡坊々眠のまやや蛙
出村大籠
日山田
日ア二
日ナ
日三
日三内
主得
山東
菊二
百山
一色
椿窓

植物之部

木くけさささささささささ
花にささささささささ
されの本もや花ひのおお枝
口名
夕六
千影
野場
自樂

花

おさささささささささ
ささささささささささ
一日をわけてささささ
昔の中や風ささささの只
観るささささささささ
おさささささささささ
さささささささささ
いささささささささ
おささささささささ
おさささささささ
花の山神おささささ佛あり
全
五出
全
子雀
一學
如々
鼻物
種一
雪風
雪香

櫻

念佛のそよよあふたり
 赤糸のたより鳥一羽月お
 北山乃玉に拾ふる花より
 中よおお起る花の後
 さよより出さるる花の夕
 人ほよよまきいぬ花の夕
 末れよよ乃ほい歌の夕
 延よよあまの夕
 旭のよよの夕
 一えよよの夕
 三月の風よよの夕

風指 志成 井眉 六響 其梅 辰角 具響 五調 自乐 南國

蕪 若菜 若州 五形

眉の毛のわや
 小やよよの夕
 ねよよの夕
 隣持よよの夕
 初よよの夕
 さよよの夕
 條来よよの夕
 家やよよの夕
 わよよの夕
 若州やよよの夕
 三四尺よよの夕

岸和田 糸桐 青亀 巴長 奈保里 以輪保 芦和 利秋 逢柳女 秋禱 吃丸 淋山

梅 莖 椿

山寺を椿の枝に大分ある

後後尾方 麦二

廻文

かう水花結へ来いと莖は

南叶

影の香けをわけて咲く為莖

其馨

緋玉垣より咲く梅は

五雲

嬌しきささるる梅は長びん

暎生

市井や白ひいもて根を

元祇

春の分七ハ分をうたはる

与人

あしはるふもをいれ月を

自示

山くよ葉おとや梅白ふ

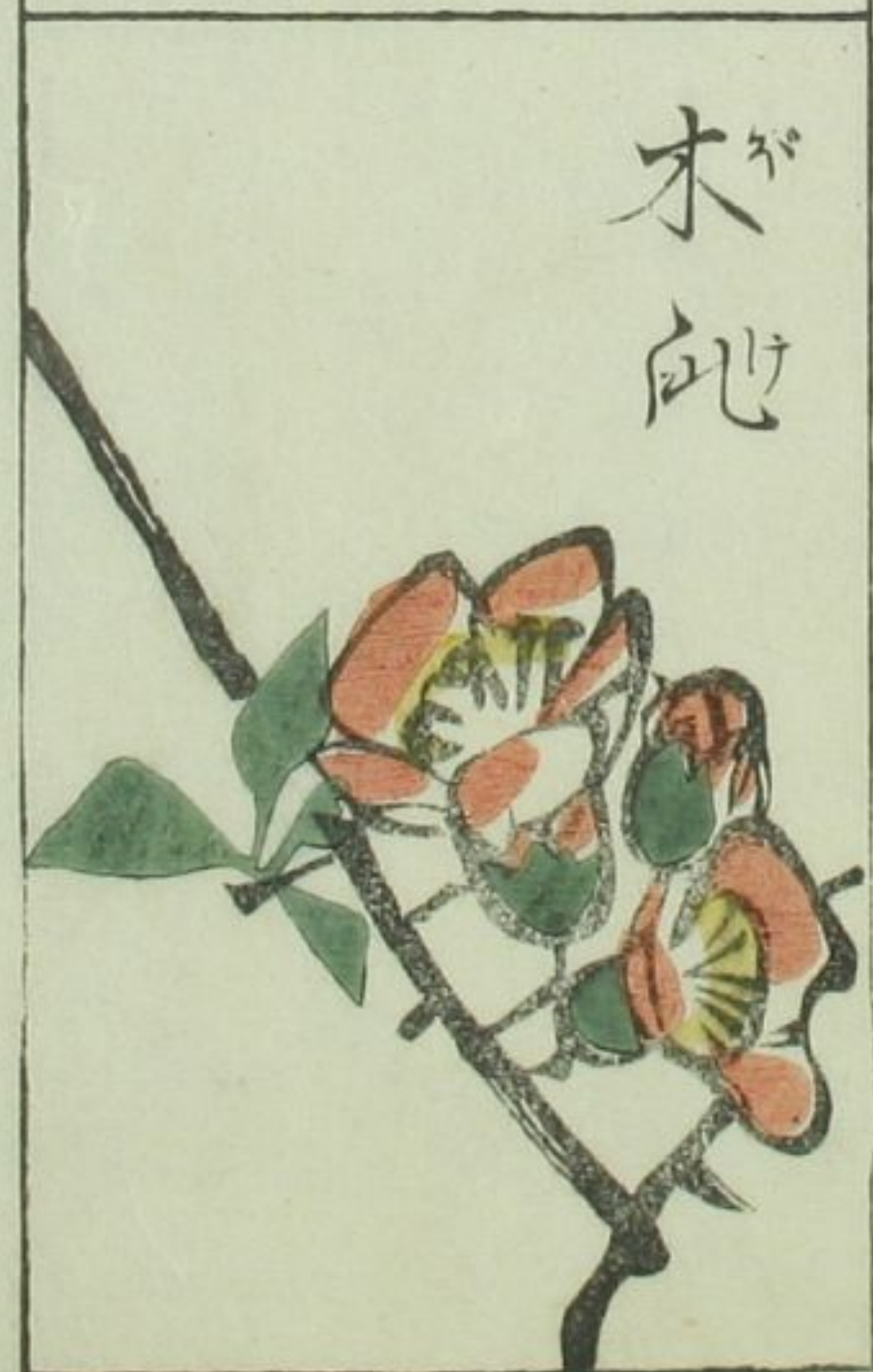
糸来

お梅も枝の子を山ふ下

其梅

朝うけや豆腐をうたはる梅の

嵐朝



枝をみきては梅もさるる
 可朝
 口は鼓
 文好
 奈保里
 碩翁
 對山
 朝

柳

柳の明く皆二月は柳の家

林田僧賢更

御風

去さば柳の物青みり

文好

又すいて見れは田の柳

大和

後をゆく柳の物あはれ柳か

三處

きまらぬ柳の木は根よら柳か

延史

は年木せよと柳く起き雀うき

羅風

接木はまやち山麓の柳か

自樂

鳥はあめをくちりやあはれ柳

保國

お明く木は芽せはは何そそ

孤山

あの花はあめをくちりやあはれ柳

井左

海棠のたふゆくむや明のき

自樂

日

日多クス

下園

土井勝代

接木

木芽

棠花

海棠

接木

木芽

桃

えは月人のゆきを登りり

林田

霞曉

後をゆく里はあはれ柳の花

橋後山

古井

ゆははあめをくちりやあはれ柳

五出

莖立にふりてあはれ柳

唐カキ

枕柯

夏之乾坤

夏

かろくちや氷の物あはれ

ツルカ

樂土

大船より柳をくちりやあはれ柳

杉夕

昔はあはれ柳の流く四月は

管歌

あはれ柳の流く四月は

何来

四月はあはれ柳の流く

辰角

四月

五月
六月
七月

鳩の村鼻月お月のさび所 出づ大鏡 仙友
水を月やしる涼きこの夜の信 江戸 芳裔
文りもやまのつふふ寄れ者 江戸 護物
月をに相いよきもの五々 ツシマ 淋山
五月雨や小坂もさる蟹おけ 江戸 東指
みれ中乃系よりんそく 江戸 巴長
さみそりて又峰直も小 信濃 富雪
やまたきの晴や小をれお 信濃 自楽
清水わくや浮きよき 文通 采彦
おろおろさる安りや 洛 木海
夏涼くならん月おの遠 在後 洲人

清水
夏月

夏夜

うすいよにるれと月お 江戸 久慈
夏の月お送踏つ 作石 秀甫
な川乃おの 古井
みーおや 東指
短おや イヅミ 千拙
續き ツシマ 曙堂
富士筑波 月江
市中 市折 崔林
癖 玉屑
く 日野 士明
す風 亀友

雲峰

涼

海とそらわくも海とそら門涼
朝出好極沼同
行らるる青みすしや水満り
舞イノノ顔瑪

けしきたよ海や小鳥も中好ま
池田 一扇
麻の白ひ乃ちり子甲くく
井眉

根なし雨家根のきしよ貝きく
扇
紫すく如矢貴行くもくや成
扇
相の陰いほお月のおき迎
全扇
観世をまうもかた 陣
全扇
赤鳥井是もも林のけくき
全扇

清新の流よ笛流むく
扇
摺折れ蓋よ小板を割らせく
全扇
女房志ふくくもきん啼
全扇
根殺嘆くまに知れも人の悲
全扇
油五折るくは青葉
全扇
ういまくと掃く舞も月お葉
全扇
奇如丸をまへ日く
全扇
顔の歎あや果やせ舞
全扇
筆をちかふくあまほの舟
全扇
八重折れ袖もくお教は
全扇
神子かんたきも切先お舟
全扇

琴

羽二重に上りしとふ平琴一ツ

作良 李甫

蛭牛

角の如くちりばむや鴨牛

信長 藏六

老鶯

群々や老うひよのたう青

ツレマ 自楽

水鷄

水鷄来ふ道の水を渡る門

一色

水鷄

水鷄来ふ道の水を渡る門

一色

水鷄

水鷄来ふ道の水を渡る門

一色

水鷄

水鷄来ふ道の水を渡る門

一色

水鷄

水鷄来ふ道の水を渡る門

一色

水鷄

水鷄来ふ道の水を渡る門

一色

水鷄

水鷄来ふ道の水を渡る門

一色

水鷄

水鷄来ふ道の水を渡る門

一色

浮粟

やう浪のきこゆるき粟

ワカナ 黄厄

鴨

鴨のひらわたのきこゆる

信長 足彦

鴨

鴨のひらわたのきこゆる

信長 足彦

鴨

鴨のひらわたのきこゆる

信長 足彦

鴨

鴨のひらわたのきこゆる

信長 足彦

鴨

鴨のひらわたのきこゆる

信長 足彦

鴨

鴨のひらわたのきこゆる

信長 足彦

鴨

鴨のひらわたのきこゆる

信長 足彦

鴨

鴨のひらわたのきこゆる

信長 足彦

鴨

鴨のひらわたのきこゆる

信長 足彦

鴨

鴨のひらわたのきこゆる

信長 足彦

鴨

鴨のひらわたのきこゆる

信長 足彦

鴨

鴨のひらわたのきこゆる

信長 足彦

鴨

鴨のひらわたのきこゆる

信長 足彦

鴨

鴨のひらわたのきこゆる

信長 足彦

犬串
子親

破垣のまもるべきが深子鳥 イッミ類
 かじこくくえくくく只ねと杖 五出
 鳥降とねまおねあはと 杉念更
 けりけねのうひて 下張
 ほくまの鳥か ムツ
 子親 タニハ
 木や人を選 梅友
 かと 全
 いくねまや血 王子
 さく 八龜
 二日月 子雀

鹿の子

登々ふえを鹿の子は二夜来々

野場

復植物部

若菜

花やに風の吹来る若菜の子 シナノ 素菜

おちりくおまよありやねの虹 東指

六尺の息うけ 出羽十三所 古久二

わく菜して 椿窓

山鳩 自樂

糸 卧彫

ふ糸 馬笑

大串 探草

若子

年重盛画の後

菖蒲

燈籠の灯へさるる菖蒲の
不^{クル}二^ル根^ルは菖蒲はさるる菖蒲は
朝

卯花

卯恒の青みささるる菖蒲は
うねるやねづつかくる解の
卯の心の下葉はさるる菖蒲は
可友

若竹

さる若竹はさるる若竹は
三日月とゆふとさるる若竹は
此石

後

若竹や雀さるる若竹は
卯の子はねるさるる若竹は
曾梁

牡丹

年時さるる牡丹はさるる牡丹は
鳥と氣の静さるる牡丹は
自樂

杜若

若くはさるる杜若はさるる杜若は
二つ月とさるる杜若は
如髮

山梔子

山梔子のさるる山梔子はさるる山梔子は
人のさるる山梔子はさるる山梔子は
其鬢

芙蓉

芙蓉のさるる芙蓉はさるる芙蓉は
鳥標や灯さるる芙蓉はさるる芙蓉は
五出

蓮

蓮のさるる蓮はさるる蓮は
蓮のさるる蓮はさるる蓮は
小杭

青梅

青梅のさるる青梅はさるる青梅は
河骨のさるる河骨はさるる河骨は
士明

河骨

河骨のさるる河骨はさるる河骨は
八千

栗花
楸の花
夕魚
茄子
苗代
田植

ひや〜〜眠たきんよ暮花
家野ホウ踏く〜〜架の花
花楸〜〜まじ麻う那
夕魚の〜〜や水車
袴ま〜〜な〜〜茄子小
か〜〜ろや湖の水〜〜あ
月〜〜うよ〜〜ぬ田植の〜〜い
田〜〜えは伴路はま〜〜うら
稲芽〜〜て堅田の〜〜きい〜〜う
其梅
野揚
竹各
舞鶴
利翁
真彦
千崖
井丸
管歌

林 乾 坤

月

いほのせは〜〜うら花之月
名月や一里出〜〜る花のえ
夕月や更〜〜て曇る家呼吸
海芽を〜〜や名月神七人の親
名〜〜や名と〜〜しと花のよ花
夕月や〜〜らうら橋も〜〜ふの陰
名月の思〜〜い花も〜〜ほひま
名月や一〜〜二と〜〜ふと花のき
山〜〜しと〜〜らうら花の月
花の月〜〜る〜〜うら人のさあ〜〜か
〜〜ふ乃〜〜つぎ人の心〜〜むら〜〜うら
篤光
布席
鹿洞
漫々
一色
自楽
全
自楽
全

繪行器

月形の行器を生柿白糸俵
たし今ねるる今ねるる鏡の
物もけしきと行器の
穀倉の形と行器の



月形月形の行器の行器を生柿を生柿白糸俵白糸俵

佛水

后后の月の月眉眉ををはりはりのありのありややううにに

下弦

太節

ねあねあののききれれををいいささららぬぬ后后ののりり

笙歌

一一夏夏ははももももととわわけけははもものの月月

子雀

川川杉杉やや耳耳ののわわけけははもものの月月

江戸

芝山

ととははももののささららぬぬははもものの月月

辰角

秋秋見見和和鈴鈴ののけけははもものの月月

五重

秋

常盤木常盤木はは申申はは住住るる林林ののりり

自樂

ききんんののききんんのの林林ははもも

全

初初ああききやや情情ややもも物物ああれれははもも

林田

有隣

ととのの林林ののりりははもものの月月

南賓

釣釣猫猫はは瘦瘦おおははもものの月月

龜友

ききんんののききんんのの林林ははもも

樂土

涼涼ははもものの月月

花栖

ききんんののききんんのの林林ははもも

子方

素素節節ははもものの月月

素月尼

ききんんののききんんのの林林ははもも

伯先

朝朝寒寒ははもものの月月

自樂

秋風
七夕
朝寒

おき
らるる
ハ翔
務
落

行
秋

灯あゝやおきおるるるの件 イキ 自樂
 やさしき名月との暮光寺 イキ 其梅
 ハ彩やえんや嬌風仙居 イキ 誘帆
 寄る川や馬はよく知るその遠 ムツ 塵友
 浅芽けや奈の上り新衣 キヒ 冥く
 ふあよの早もくむとらるる ハリミ 困翁
 菴の奈小粒ふやうまわい フセニ 呉山
 せき出の風のやうさよ萩の奈 ハ 何来
 寄渡りてきとらるるや州乃居 ハ 柗後
 片如柄よりしるるる奈時 ハ 自樂
 川林のやよ見ゆるや萩の株 ハ 利翁

角力取

黄蜀葵花



川林と風の中心より入るる 大田 大鑑 幸翁
 沢の奈時一夢をゆく林 ハ 自樂
 川林とやうらうら小舟の輝 ハ 全
 山かゝれ夢来くくわて林 ハ 全
 走くよ林とけふり畑 ハ 全
 川林や芒の束のうら ハ 起翁
 雨のりと木槿咲くや ハ 冬色

新貝

人の世や新貝の如くシナノ一糸

あまのや中啼けをねのき出村柳田機河

新貝やわらありき親産理月

あまのや一日の一寸自楽

通ふ針の通るや小余了國

朝風の折言か秋田雪彦

萩折く折人筑後楽只

あまのや秋田利秀

日中をツシマ里夕

夕あま出好石水

候郊外吟行君竹

花

萩

女高花

之伏の夏なきや萩の風よあまを

月を梅分利萩の夢

中折る系所萩夢

造代の神乃萩夢

水をお女萩夢

憂人の足萩夢

折るは世に萩夢

とくふ萩夢

きこえ家池田夢

行 合歡の心を訪へて

菊咲ぬ枝をせり只妍一露日 曙堂

月より光るを寄時ありし 行柳 五維

杯の夢醒る跡下は山にけふ 堂

けしき 杯の笑う聲をたを 佳

薄く花小を花枝も風のあや 佳

夕日夕しき 雀の聲をふ 佳

よらけ代のうらら 雀をすけり 堂

桜の裏を下戸よき 佳

思ふ夢をうたふ人 夢をむ 佳

無きさき 夫も四五日 佳

借るに能く本末はさしけり 堂

採乃おなふををえんにけり 佳

歌よみの癖をくしむふ歌とや 佳

花火よきを懐く 二日月 堂

いまのうちに作、買ゆふやの市 佳

や 耶の歌よき 佳

きよよき 思つき 佳

うらやまをうたふ 夢亦ら 堂

山のふもとにありし 葉の花 秀甫

〇七

鴨

鵲

鷹

鳩吹

棠字

初鮭

鮎

鹿

破春申や雉もささるし申の夢

むさしの海へももや町は昔

町へ山へ時あそ来りてや

あき風や鶉よかき人茶の湯

天保乃古きと人にあし朝う

たのむやあそとてうもたは風

鳩吹のそとてうもたは木の末

菴の田乃棠字の若まうとて

とて鮭や海の本さかきりけ

まはるのれり鮎を鮎りり

峯の鹿子を遊んでるあそぶ

千鶴

此石

林水

汝川

茂推

自楽

全

全

井左

菊之

井酒

唐も夫の氷を流さるとも

おく山や園りりりりりり

唐笛や罷なきものほし

君竹

佳城

自楽

あそび生類

千鳥

物のうま道ついでに

小ねちちうほよむきり

ふりりりりりりりりり

ちりりりりりりりりり

そりりりりりりりりり

そりりりりりりりりり

蒼乳

其梅

渭貞

千鶴

鶴笠

公路

鶯

鴨
細代
鶴
鶴

まじ月や鴨の雄きの首光ふ
相風や二所とありし杭
このころをばつゝあつゝ鶴
みそこの萱の古垣又々侍
これこそあつゝあつゝ侍

自樂

弓雄

其梅

自亦

石昂

標

がんどきい雪せ上り
とく板の下に釘あり
嗟跌と



枯
野

家あはく月あはく
十月はあはく
十月はあはく
十月はあはく

出羽

口林田

鹿樂

水
仙

枯くつてあはく
水仙のふきに
あはく
あはく

口アニ

湖賢

自樂

大
根
川

あはく
あはく
あはく
あはく

江カ

信後福山

孝道

功里

茶
花

あはく
あはく
あはく
あはく

古井

全

冬
椿

あはく
あはく
あはく
あはく

チハリ

子雀

燕

あはく
あはく
あはく
あはく

井左

落
葉

あはく
あはく
あはく
あはく

石昂

神樂

かぐつ内經だいりくくわゆるまを
里神りかみふとまゝくくわゆるまを
小忌衣こよぎ山やまあしあし舞人の習ならま
あつほとろかたをまゝに
て舞まひ中のかたをまゝに
ふあつ則すなはち物の奇あまく
とあるもあつあつあつあつ



時雨

幸さいくの時ときかたかた
初はつめあまをまをまを
山鳥やまどりかたかたかた
花はなのかた二人ふたりあつあつ
月つきいふかたかたかた
利り斎さいかたかたかた

冬

初はつめあまの氷こほり降ふりる
冬ふゆかたかたかた
婦つま申まをさかや路みちもふま鳥
下したり柳やなぎ節ふしくや浦うらの冬
冬ふゆ川がはや初はつめかたかた
刺さ雀すずめかたかたかた
山住やまぢかたかたかた
崎さきかたかたかた
水みづ河がはくかたかた
斜しやまかたかたかた
正月しょうげつの枝えだもかたかた

冬月
冬
小春

梅價
多おほよ
自みづか樂
樂がく只
席せき道
井い眉
辰たつ角
杉すぎ畑
自みづか樂
全ぜん
全ぜん

風

十月

後

寒

霜

あき〜やはら〜鶴喜れんがれ 月巢

あき〜にあハや鶴の信ら〜 自楽

十月や垣根の葎又生〜 全

さき〜おや葎ま〜後の蛸 全

田の鳥如州〜さき〜炭 俵 星譜

炭おきの中にあ〜ん〜つゆ 井左

葎のねれ〜さ〜な〜や炭せ〜 自尔

き〜入〜あきや小きの毛の立て 全

帆〜し〜ら〜さ〜さ〜〜人〜人〜誰 曙堂

あき〜ら〜ひ〜の〜あ〜ら〜く〜包〜や〜お〜の〜お 淋山

あ〜の〜あ〜れ〜さ〜ら〜み〜せ〜て〜お〜乃〜銅 保國

霰 霰

城鳥もえけぬおやまは霜 青城 仙倉吉

ひ〜〜〜き〜ら〜つや霰の粒ふ〜 光春

竹の末は芽が〜そ〜き〜雪の中 を 菅雅

幼きや匂ひあ〜〜〜吹〜〜〜 夏島

周〜雪ちか〜き〜お〜こ〜き〜り 柗後

氷海のか〜〜〜さ〜〜〜雪〜〜〜 出 素考

降を〜〜〜〜小〜裏の〜後〜き〜り 自尔

雪車を押〜〜〜い〜〜〜や〜親〜糸〜せて 全

冬に〜〜〜〜湖よ〜〜〜き〜や〜お〜の〜き〜り 履友

湖北中に内を小橋さのわ〜〜〜年〜お〜月〜す〜〜

年々くし香のあはれをさるひより
ナレホ
井月
まききつるや星の光りも年々未
ハ
来粧

四季神祇衣食財之部

更衣

月子よれくくそりて給わきぬ
仙タイ
乙二
大作のきくそりて更衣
寄松
木ももてと係るくそり衣く
一色
子れしくの汗くそり文衣
其髻
初給帷子おけ是て通る
花栴
あふの戸れかろくぬり初給
ツルカ
杉夕

帷子

夏の風盆帷子よ白ひもき
洛
耳砂
さよまゝの米比のや束の息心
月泉

初帳

初年やまききつる初帳
子雀
蒼の初帳初くくそりて
笛三

不二指

叫と木も木の声あつ初後門
ツシマ
初琴
夏も火もあつる不二指
ハ亀

不二指

初給の初いさくそりて
自楽
夏も花もあつる不二指
ハ亀

花浄堂

初給の初いさくそりて
自楽
夏も花もあつる不二指
ハ亀

魏奈

魏柵やあつるあつるあつる
左人
成雅

街町

まち町都を征の救多し

自承

月入ても身ハ細くう街とき

年歌

札納

札納花鳥村のききほのり

亀友

日傘

舟日傘やきききききき

光春

傾多し不二のきききききき

柳後

青簾

ふとらに木橋を折やきききき

義學

扇

扇うらそくく浪のふききき

子雀

袈裟

月くく軽くあくく袈裟の

万羽

息出く折く菊ふききき

御風

火桶

いしきのねをくく火桶の

夷偏

水飯

水飯や膳のなほ風の節

岑梅

茶喰

蓬生のおよばあし茶喰

仙舟

襪

襪喰くく膝くきよく不この山

桂羅

昔日を後くあくく

自樂

東海人よかきあまよ襪とけ

子雀

神祇

浪よよ流月よ草ふく

亀友

釈教

経きかほほくや法のは替

全

愈

いつをきききそのくは若し

全

無常

風きかききふききの盛うか

全

迹懐

抱ふくくくくく菊の畑

全

此書は氷を好む多きを至る系アハ
 薄くしを急の暗くを氷日
 ひの粉のおみよまされたる片木
 確る子にけり出ぬ一はほそ雪
 未だ紫鏡かを時ぬのさるるを
 初るやあやふもあふさ
 和風のこれハ氷となすまじり
 名月や人のふれ上を思は
 菊葉にきくいさきのさるる
 大乃葉や月をわく月影
 此角

イヨ西条 奇文
サカヒ 蔓友
 此角

色紙
 短冊
 御集冊摺物彫刻所

京師高倉通四條下ル所

菊屋平兵衛

